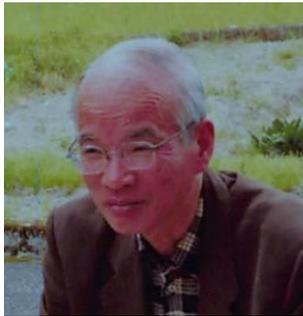


「ギャラリーの庭に田んぼがあると良い景色になりますよ」と京都の浅田庭師に言われて、その気になって田んぼを作り始めたのが3年前です。美術館の庭にふさわしいものにしようと枕木や御影石で小さな土手を作り、作り上げた田んぼは2坪あまり。狭いと言っても田んぼは田んぼ、それなりの苦勞はありましたが、庭に田んぼがある風景は予想以上に変化に富んだものでした。



初夏には苗の上を風が渡る様子に始まって、炎天下にしっかりと濃い緑となり、やがて小さな花が咲き稲穂が伸びて、全体が黄金色に成熟します。狭い田んぼに刈り取った稲を稲架掛けして乾燥させる様子は秋を見事に演出してくれました。この美しさにはまって、今年4回目の田植え、苗も順調に育っています。コメ作りには88回もの手間暇がかかるそうで、そういえば米の字は八十八と書きますね。



ところで、ギャラリーはこの8月に10周年を迎えます。ギャラリー運営にもコメ作りと同様に多くの手間暇がかかると感じています。10周年を迎えることが出来たのはひとえに物心両面で支えていただいている皆様のお陰です。それに加えてギャラリー現場での仲間たちの力も強く働いていると感じます。

コロナウイルスの影響で、気軽にお越し頂けない状況が続きます。本来であれば10周年記念のイベントを計画し、皆様に楽しんでいただきたいところですが、思うに任せません。そこでイベント報告に代えて、紙上でギャラリーメンバーをご紹介します。各人の役割分担を見ますと、適材適所という言葉がぴったり当てはまるのが不思議です。

トップバッターはもちろん原田美恵子さん。ギャラリー全体を見渡して静かなプロデューサー役をつとめています。原田脩の絵を知り尽くしているので、キャプションは美恵子さん任せ。美恵子さんが居てくれるだけで、座が和みます。毎週お客様用にとケーキを焼いて持ってきてくれるのですが、このケーキと自家焙煎したコーヒーとの相性が抜群です。辛党を自認する濱田さんでさえ、美味しそうにほおばっています。



副館長の濱田さんは当館のベテラン解説委員長。本の虫で、毎週新しい本を何冊か持参して熱心に読んで知識を積み上げています。九州最大級の書店の社長さんだった往時が偲ばれます。ギャラリーを訪れるお客様



に対して、原田脩の人となりや夫々の絵の成り立ち、ギャラリー建設の苦労話など、次々に話題がわき出します。また、濱田さんは知る人ぞ知る「床漬名人」で、濱田家伝来の糠床は 100 年の歴史があるのです。でも実際に作っているのは美智子夫人？

原田脩の絵を熟知している新納さんは、絵画の保管と展覧会のテーマ設定および展示係です。今回のテーマである「脩の月」も彼の発案で、今回展示しているすべての絵には月が描かれています。原田脩の描いた月が、木々の梢やお堂の藁を静かに浮かび上がらせています。思わずここで「脩さん、月見で一杯やりましょう」と声を掛けたくくなります。



池の鯉とメダカの飼育係は藤川さん。ギャラリーの池でせっかく育て上げた見事な三匹の緋鯉がこの春突然消えて意気消沈していました。藤川さんの足音で鯉が水面に浮くほど馴れていただけにショックが大きかったのでしょう。どうやら大鷲にやられたようです。藤川さんは刈払機使いの名人なので別名は「草刈幸男」さん、あのスターに面影が似ているとは本人の弁。いつも早朝から雑草と格闘してくれています。大きな行事のたびに助っ人で来てくれる吉田さん竹内さん栗秋さん井上さんたち藤川組のリーダーでもあります。

ギャラリーの花作り担当は農業班。イノシシに作物を食い荒らされて、耕作放棄地になっていた隣接の畑約 3 反を借り受け花畑にしました。春は菜の花、夏はひまわり、



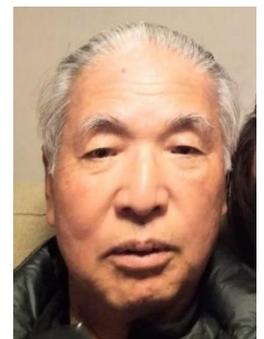
秋はコスモスと一面に咲かせてくれています。ユンボは植田義隆さん、トラクターは水田さん、



植栽役は前田さんと役者がそろっています。農業班のコーチ役は椋本さん、とにかく知識が豊富で珍しい野菜や果物を栽培し、皆を驚かせてくれます。芝生の刈込もお手の物、おかげでギャラリーの芝生は青い！



茶畑担当は小林さんと宮崎さんの名コンビ。指揮者佐渡裕さんと育徳館中高オーケストラとの演奏場所確保ために茶畑を移したら土との相性が良かったのかすくすくと茶の木が育ちました。茶摘みは菅笠かぶって茜襪をして（そんなものしてないか）上から 4 枚の葉だけを摘んで、金丸さんが作ってくれた籠に入れてゆきます。その茶葉を蒸して手で揉んで、また蒸してまた揉んで、何時間もかけてゆっくりと製茶してゆくのです。今年のお茶は上出来でした。





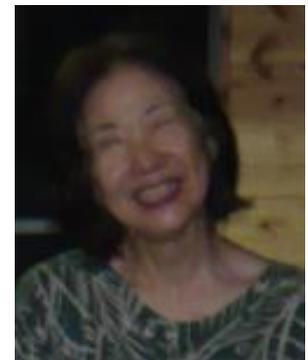
金丸さんは宮崎で竹細工と炭焼きとお年寄りのアッシー君と焼酎の毎日。遠くにいても心は一つ。何でもできる万能選手の力は衰え知らず。

ジャムづくりはご存知、シェフ廣中さん。今年も桑の実ジャムと梅ジャム、晩白柚ジャムが出来ました。この夏は無花果ジャムに挑戦する予定です。もちろんお得意のカレー作りも。博多・行橋間を自転車で往復する脚力も健在です。



近藤さんと植田幸子さんはコロナを避けて自宅退避中。近藤さんはパソコンや機械理論に精通した相談役ですが、最近マムシに噛まれました。幸い靴の上からだったので事なきを得ました。幸子さんはすぐに走りたがる館主の制動役、時に推進役として支えてくれます。静養中のここ数か月は近くの河原で鴨の雛が育っていく様子

に夢中です。



常時顔出しメンバー以外にも陶芸の梶さん、茶道の藤原今子さん、篤農家？の岩村さんをはじめ、関西や関東にも多くの仲間たちがいますが、その方たちはいずれご紹介することにいたします。

こうした仲間たちと協力会の皆様に支えられて10年経過しました。続く10年に向けて皆で力を合わせて行きたいと思っています。引続きご支援いただければ幸いです。くれぐれもコロナには十分ご注意ください。皆様のご健康を祈念いたします。